

要 望 書

南九州地域の拠点港湾「八代港」の整備促進について
～地域経済の活性化のために～



令和4年8月19日 「みなとのおしごと見学会」の様子

令和4年11月

熊本県八代市
八代港整備・活用促進期成会

八代港の整備につきましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

港湾は、国際貿易の要となる重要なインフラであり、特に九州は急速に成長するアジア諸国とのゲートウェイとして、我が国の経済発展に大きな役割を果たしております。

こうした中で、脱炭素社会の実現に向けたカーボンニュートラルの取組み、年々激甚化・頻発化する大規模災害へ対応するためのインフラ・物流ネットワークのリダンダンシー及びレジリエンス向上への取組み等、社会の変化に対応した港湾機能の向上は、喫緊の課題となっております。

さらに、ポストコロナを見据えた地域経済の力強い回復と持続的な経済成長を進めるためにも、地域と密接に関連する港湾の整備・振興や予算の確保が必要です。

さて、八代港におきましては、昨年台湾航路の就航もあり、コンテナ貨物取扱量が前年比 14.1%の増加となる 26,946TEU と過去最高を記録し、県内貿易の拠点として着実な発展を遂げております。

これもひとえに貴職をはじめ、各関係者の皆様方のご尽力のおかげでございます。

また、本県においては、令和3年度の県産農林水産物の輸出額が過去最高を記録する等、農林水産物輸出への機運も大きな高まりを見せていることから、本年7月に完成したCFS倉庫がその一翼を担うものと期待しています。

こうした中で、八代港の水深14m航路は未だ計画水深が確保されていないことから、現在、大型船舶の入港に際しては、「喫水調整」等の輸送コスト増という深刻な課題が解消されておられません。

また、世界的な船舶の大型化傾向も顕著であることから、このような輸送コストの削減が図られなければ、今後の利用減少に繋がりがかねないと危惧しているところです。

併せて、令和5年には台湾半導体 TSMC の事業子会社である JASM 熊本工場が稼働予定であることから、半導体製造に必要な原材料等の輸入が増加することも予想されており、安定供給体制確保のためにも航路をはじめとした港湾整備の必要性が高まっています。

このような現状から、計画水深が確保され、大型船舶が安定的に入港できることにより輸送コストの削減ができれば、背後立地企業の競争力強化のみならず、シリコンアイランド九州を支える新たな貨物の輸出入にも繋がるとともに、更なる設備投資や雇用創出、消費者への利益還元等、本市域にとどまらない広範な地域経済活性化等の効果が発揮されることとなります。

また、外港地区に現在建設中である県内最大級のバイオマス発電所も令和6年には稼働予定であることから、燃料である木質ペレット等の取扱量が増えることとなり、既存岸壁での取扱いが非常に困難となることも想定されております。

このためにも、加賀島地区への水深12m岸壁をはじめとした原木ヤードの再配置等によるふ頭再編や港湾施設の効率化は、将来を見据えた重要な取組みとなります。

今後は、本市や県南地域はもとより、南九州地域の国際拠点港として更なる利用促進が期待される中、より一層の機能強化に取り組んで参りたいと考えておりますので、水深14m航路の早期完成及び新たな貨物需要への対応を可能とする港湾計画への早期見直しにかかる関係機関等への技術的な支援について、ご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

一、水深14m航路の早期完成を図ること。

一、港湾計画の早期見直しに向けた技術的な支援を行うこと。

令和4年11月

八代市長 中村博生

八代港整備・活用促進期成会長 松本喜一